

調査の実施

秋の調査

4

秋

秋の調査では草地の植物の調査を重点的に行います。

この時期の調査では、鳴く虫の調査や木の実の調査が可能です。

鳴く虫の調査は、夕方から夜にかけての調査になります。

秋には生きもの調査にも慣れてくるので、

翌年に向けて生きものの保全・復元のための準備も同時に進めておきましょう。



リンドウ 高さ20~100cm

山の草原や丘陵地に自生する秋の代表的な植物。



キキョウ 高さ50~100cm

日当たりのよい山や野原に自生し、7~10月に青紫色の花を咲かせる。薬用にも利用されてきた。



オミナエシ 高さ50~100cm

秋の七草のひとつに数えられ、山野の道ばたに生え、黄色い清楚な花を房状につける。



ツリガネニンジン 体長3.7~4.5cm

草原やため池の堰堤などに生育する多年草。地下に大きな根があり、これに養分を貯蔵している。夏に刈り取られると速やかに地上部を回復し、草刈りが行われる草原などによく適応している。

アケビ 果実6~10cm



山地の林に生えるツル植物。山際などで樹林に巻きついて生息する。果肉は甘く食べられる。

ルリシジミ 体長0.9~1.6cm 開張2.7~3.3cm

全体が白っぽい小型のシジミチョウ。オスは羽を開くと明るい青色がとてもきれい。

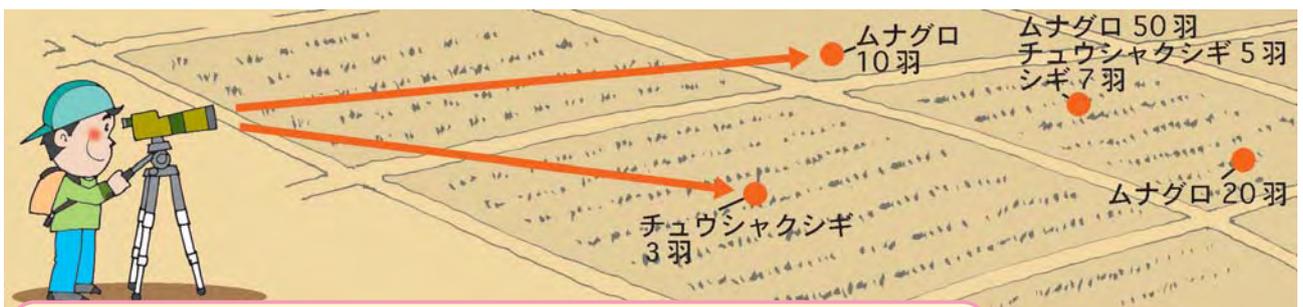


田んぼでの調査

秋の田んぼにもシギ・チドリ類が渡ってきます。水張りした休耕田に多く降りるので、どの田んぼにどのくらい個体が降りているかを定点記録法で調査しましょう。

● 定点記録法(鳥類)

大勢の調査者がそれぞれ一定の範囲を調査し、それらを集計して、どの田んぼにどれだけの鳥が降りているかを明らかにします。



おもな用具

双眼鏡あるいは望遠鏡、デジタルカメラ、カウンター、記録用紙、記録用地図

マツムシ 体長1.7~2.5cm

ため池の土手などのよく草刈りが行われている場所にいる。



草地での調査

草地や土手は、その地域での人と自然のかかわりの歴史を知るうえで、大切な場所です。日本の草地や土手は、秋の七草など、秋に咲く花の宝庫です。これは草地では夏までに草を刈って干し草をつくり、田んぼの土手はイネの生育期間はこまめに草が刈られるという農作業と関係があります。秋になると草刈り回数が減るので、これらの植物は刈り残された株から枝を出し、花を咲かせることができます。これらの花は秋に生息するチョウなどの重要な蜜源ですし、こうした草地や土手はマツムシが好んで生息する場所です。草地や土手の管理には多くの人手が必要ですから、かつての草地をすべて再生することは不可能です。そこで草地性の生きものの分布を秋の里山の調査で明らかにし、それらが多く残っている場所から再生していくとよいでしょう。

里山での調査

秋の里山は果実の宝庫です。果実は鳥類・哺乳類などの重要な餌資源ですが、その多くは昔の子どもの食べ物なので、文化の伝承のための重要な資源でもあります。そこで、結実した植物を記録するとともに、お年寄りから、食べたかどうか教えてもらいましょう。

カンタン 体長1.1~2.0cm

林の縁やクズなどがあるとところに生息し、人の腰ほどの高さにとまって、日中から夜に小さく連続音で鳴く。



ヒガンバナ 高さ30~70cm

あぜや農道、道ばた、土手などに生え、秋の彼岸の頃にあざやかな真っ赤な花を咲かせる。



水路での調査

非かんがい期は水を使わないため、田んぼは乾いており、水路も水がないことがあります。この時期には、支線用水路、小用水路、小排水路、支線排水路、幹線排水路のどこが乾いているか、魚がどこにすんでいるかを調べましょう。